

ケースメソッドについて

第5期 伊佐次志織

これから皆さんが小野ゼミで取り組むケースメソッドの、意義と進め方について、簡潔ではありますが記させていただきます。

1. 意義

小野ゼミでケースメソッドを行なう意義は、以下の7点が挙げられます。

- ①既存の理論や実例を知ること
- ②問題発見力と問題解決力の鍛練をすること
- ③論証力の鍛練をすること
- ④実証力の鍛練をすること
- ⑤口頭でのプレゼンテーション能力を身に付けること
- ⑥資料作成能力を身に付けること
- ⑦リーダーシップと協調性を養うこと
- ⑧その他

2. ケースメソッドの進め方

課題の内容により多少異なることもありますが、5期生が取り組んでいたケースメソッドのおおよその流れは以下の①～④の通りです。

①目標設定

与えられた課題を解決するために、どのような目標を立てるのかを決定します。

必要であれば言葉の定義もここで行ないます。例えば、一概に「成長」といっても、何をもって「成長」というのかを明確にする必要があります。

②現状分析

3Cや4Pなどのフレームワークを用いて現状を分析します。

現状分析が、単なる現状の羅列にならないようにきちんと分析を行なうことが求められます。

現状分析を土台として問題点や戦略は導き出されるため、重要な過程となります。

③問題抽出

目標を達成するために、現状分析から浮かび上がる問題点を抽出します。

なぜ、問題であるのかを理論や実例を用いて裏付けることが求められます。

④戦略決定・戦略提案

抽出された問題点を解決する戦略、或いは問題点を改善する最適な戦略を提案します。

提案する戦略は実現可能であるのか、どれほど問題解決にその戦略が有効であるのかを示すことが求められます。